

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22020	事業名	舗装老朽化対策事業		評価分類	A1			
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署			
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		予算科目	会計	01:一般会計				
	基本施策	04:道路の保全・整備			款	08:土木費				
	施策の方向	04:道路の適切な維持管理			項	02:道路橋梁費				
重点プロジェクト	-		目		04:道路舗装費					
事業期間	H 27 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	道路法・道路構造令		部	建設部			
課							建設管理課 道路保全G			

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	市が管理する道路は、約558kmあり、従来の事後的な修繕を継続した場合、近い将来に維持管理費用が莫大となることが想定されることから、舗装維持管理計画に基づき、舗装修繕を計画的に進める必要がある。	道路利用者	市内主要幹線道路の予防保全的な修繕を行うことで、安全で安心な道路サービスを提供するとともに、修繕にかかる費用の縮減・平準化を図り、効率的・効果的な道路管理を図る。	舗装維持管理計画に基づき、主要幹線道路31路線、延長約43kmの道路の修繕を計画的に進める。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		事業計画	○舗装修繕工事		○舗装修繕工事 ○舗装構造調査		○舗装修繕工事		○舗装修繕工事
活動実績 (計画通り実施できたか)	交付金内示額は要望額を若干下回ったものの、舗装工事を計画どおり完了した。 社会資本整備総合交付金 ・川崎白木線 L=0.56km 緊急自然災害防止対策事業債 ・名阪工業団地3号線 L=0.73km ・小野鷲山線 L=0.30km		関係者の理解の下、舗装工事を計画どおり完了した。 社会資本整備総合交付金 ・古厩関ヶ丘線 L=0.29km ・路面性状調査 N=一式 緊急自然災害防止対策事業債 ・能褒野西線 L=0.74km ・田村線 L=0.18km ・古厩関ヶ丘線 L=0.25km		関係者の理解の下、舗装工事を計画どおり完了した。 社会資本整備総合交付金 ・田村線 L=0.09km ・小野白木線 L=0.10km 緊急自然災害防止対策事業債 ・小野鷲山線 L=0.13km				
計画額	事業費	事業費	81,000千円	60,695千円	52,000千円	60,305千円	17,000千円	18,210千円	56,000千円
		国・県支出金	20,000千円	15,847千円		10,653千円		6,605千円	
		地方債	59,000千円	43,300千円	37,000千円	43,600千円	17,000千円	11,000千円	56,000千円
		その他		0千円					
		一般財源	2,000千円	1,548千円	15,000千円	6,052千円		605千円	
決算額	事業費	事業費		59,741千円		56,932千円		17,942千円	
		国・県支出金		15,848千円		10,653千円		6,605千円	
		地方債		42,246千円		40,327千円		10,100千円	
		その他		0千円		0千円		0千円	
		一般財源		1,647千円		5,952千円		1,237千円	
①期間内計画額(R4-7)		206,000千円		②期間外計画額(R8-)		-		①+②総計画額	
								206,000千円	

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	1,210千円
当年度の最終予算額	17,000千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 舗装修繕済延長(累計)	舗装維持管理計画に基づき、修繕した舗装延長(～R3:8.3km)	成果	km	計画値	10	11	11	12
				実績値	10	11	12	
舗装修繕率	舗装修繕済延長/総延長(43km)	成果	%	計画値	24	26	26	29
				実績値	23	24	27	
				計画値				
				実績値				

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	市内主要幹線道路において予防保全的な舗装修繕を行ったことにより、道路利用者に安全で安心な道路サービスを提供するとともに、ライフサイクルコストの削減を図るなど、効率的・効果的な道路管理を推進した。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
道路利用者	市内主要幹線道路の予防保全的な修繕を行うことで、安全で安心な道路サービスを提供するとともに、修繕にかかる費用の削減・平準化を図り、効率的・効果的な道路管理を図る。

(再掲)

課題	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥	令和6年度は社会資本整備総合交付金の当初交付率が低く、その後の県内での交付金流用により要望額を確保することができたものの、令和7年度以降も交付率の低下が見込まれ、修繕計画に遅延が生じる恐れがある。このため、安定した財源の確保に向け、関係機関への積極的な働きかけが求められる。

方向性		
継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する	
⑦ 事業の展開	改善・見直し内容	
	令和7年度で対応する(した)もの 引き続き主要幹線道路の舗装修繕を行うとともに、事業の財源確保に向け、国の補正予算が組まれた場合は積極的に要望していく。	令和8年度以降で対応するもの 令和5年度に作成した修繕計画をもとに、主要幹線道路の修繕を行う。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A	A	
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	

【履歴】

1次評価者	建設部 建設管理課 道路保全GL 竹内 光利
最終評価者	建設部 建設管理課長 曾我 信介